

但馬海岸を飛翔するハネビロトンボ

山崎喜彦

1990年7月24日、筆者は竹野町大浦浜で、海岸と隣接した海洋上をハネビロトンボ数個体が飛び回っているのを目撃し、そのうち成熟して真っ赤になった1♂とやや未熟な1♂の計2♂♂を採集したので報告する。

ハネビロトンボの♂は、海洋上においてもなわばりを持っているようで、海面より数10cmから1mくらいの低空をすばやく飛翔しては、なわばりの中心となる場所でしばらく停止飛翔を続け、またなわばり内に侵入した他の♂を追い払うために追尾する行動を繰り返すのを目撃した。停止飛翔を行う場所は浅い海洋上であり、海の中に入ってトンボを採集したのは初めてであった。

但馬におけるハネビロトンボの記録は、上田(1988)により、1987年8月24日から26日にかけて、日高町上ノ郷の農業用水池で4♂♂を採集、他に1♂を目撃したという報告がなされている。筆者の知る限りでは、竹野町大浦浜でのこの記録が、但馬においては2番目の記録と思われる。

ハネビロトンボは暖地性のトンボであり、北上する経路がどうなのか、現在でも多くのトンボ仲間が関心を寄せている。国内では、北海道、本州、四国、九州ならびに佐渡島、舩倉島、伊豆諸島の三宅島・八丈島、隠岐、杣岐、対馬、五島列島、甌島列島、小笠原諸島、南西諸島のほぼ各島から記録されている(石田・石田・小島・杉村、1988)。さらに、近畿では1983年までに瀬戸内海・太平洋側の沿岸部での確認がわずかになされている程度である(関西トンボ談話会、1984)。

以上のことから考えると、ハネビロトンボは日本列島を主に沿岸および離島に沿って北上している可能性が強いと考えられる。よって但馬では、沿岸部に焦点をあてて調査すれば、さらに多くの記録が得られるものと予想される。

参考文献

上田尚志(1988)日高町でハネビロトンボを採集、IRATSUME 12:84.

石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊(1988)ハネビロトンボ.

日本産トンボ幼虫・成虫検索図説、128-129.東海大学出版会.
関西トンボ談話会(1984)分布図(ハネビロトンボ)、近畿のトンボ 62.